



# はぐ便り

2021年  
10月号  
【第88号】

## 本との出会いで心に栄養を

「いやいやえん」は、60年近くも読み続けられている絵本のロングセラーです。私もお昼寝前に読んでもらいました。その時の母の口調や窓から見た昭和30年代の景色は、あの真っ赤な表紙とともに、今でも記憶に残っています。

令和2年度の調査では、市内小学校5年生と中学校2年生の11月の平均読書冊数は、それぞれ17.6冊と4.9冊でした。また、本を読んだ理由を尋ねると、小5・中2ともに最も多かったのが「読みたい本があったから」でした。

子どもたちの身近に読みたい本がある、そんな環境をつくることができれば素敵ですね。

### 読書でどんな力がつくの？

読解力や想像力、思考力、表現力等を養うとともに、多くの知識を得たり、多様な文化を理解したりすることができるようになります。また、文学作品に加え、自然科学・社会科学関係の書籍や新聞、図鑑などの資料を読み深めることを通じて、自ら学ぶ楽しさや知る喜びを感じ、探求心や真理を求める態度も培われるようになります。

### 力をつけるためには

子ども自身が読書の楽しさを知るきっかけを作り、読書の幅を広げ、読書体験を深めるような環境を作ることが必要です。

### 発達段階ごとの特徴

乳幼児期は、読み聞かせを通じて、絵本や物語に興味を示すようになります。小学生の時期になると、読み聞かせだけでなく、一人で本を読もうとするようになり、語彙（ごい）量が増え、文字で表された場面や情景をイメージするようになってきます。高学年になると、本の選択ができ始め、その良さを味わうことができるようになり、読書の幅が広がってきます。

### ご家庭では

読み聞かせをするほかにも、お子さんと家族が同じ本を読む「家読（うちどく）」をお勧めします。そうすることで、互いに深く理解し合い、家族の絆が一層深まる機会にもなります。

また、一緒に図書館に行く、親が読書をしている姿を見せる、子どもが選んだ本を否定しないなども、子どもが読書好きになる環境づくりのために大切なことです。

### 本選びに迷ったら...

岩手県教育委員会や読書を推進している団体が推薦する図書を読んでみるというのはいかがでしょうか？

いわ100きっず



厚生労働省 児童福祉文化財



公益社団法人 読書推進協議会



で検索してみてください！



【情報メディアコラム】



## スマホやゲームとどう付き合う??

【第5回】『ゲーム依存を防ぐルール作りのポイント』

- ★ ルールを作るときは、親子で話し合う。  
→ 親が一方向的に決めない。
- ★ 機器は大人が管理し、貸し与える。  
→ パスワードなども親が管理する。
- ★ お金の使い方を決める。  
→ 「課金はしない」「限度額を決める」など
- ★ ルールを守れなかった時の約束事も決める。  
→ 簡単に破れるルールにならないために

いきなり全部は難しいと思いますが、できることから少しずつルール作りを進めましょう★

次回⇒『ネット・ゲーム依存の心と体への影響』



コロナでも  
ひざの上では  
夢の旅

